



# 入院1日30銭! 親子丼は35銭! ~地域医療を支える更生病院~

## 個人経済を悩ますのは病である

農業先進地域として「日本デンマーク」と呼ばれた碧海郡で農村振興の中心的役割を果たした碧海郡購買販売利用組合連合会(通称丸碧)の会長岩瀬和市は言いました。「生病死苦の中で個人経済を悩ますのは病である。早期に良い治療を施し医師が親切で費用が安いことにより、組合員の生活安定を図ることが相互共済の理念に生きる産業組合精神である。」この考え方のもと、皆さんの暮らしを支える病院として安城更生病院は誕生しました。



丸碧連合会事務所(大正4年～昭和15年)

## さまざまな協力のもとで

昭和4年(1929)に端を発する世界恐慌の影響が日本にも及ぶ頃、丸碧は米穀や鶏卵の販売で事業の好調を維持していました。そうしたなか、出資金に余剰が出たため、愛知県は丸碧に対して減資勧告を行います。岩瀬和市らの組合幹部は、組合の基盤縮小に繋がる減資を受け入れるより、新事業を開始する方が得策だと考えました。そこで愛知県立農林学校(現安城農林高等学校)の初代校長で「農民の父」と呼ばれた山崎延吉との話し合いの末、農村医療施設の設置を決定しました。病院敷地は、当時安城町長であった岡田菊次郎の協力で安城町役場跡(現アンフォーレ)が無償提供されました。また医員や病院経営については官立名古屋医科大学(現名古屋大学医学部)の全面支援がなされ、同学長田村春吉から「本校分校と考えてやるよう」にと激励されました。昭和10年(1935)2月11日に病院が完成し、設置提案者であった山崎延吉によって農村の更生を目指す病院という意味から更生病院と命名されました。

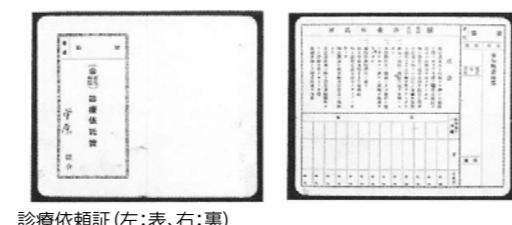


昭和10年3月5日開院当時の更生病院

## 親子丼より安い入院費

更生病院は当時の碧海郡で唯一の総合病院で、内科・小児科・外科・産婦人科・眼科・レントゲン科などをもち、開院当初は森豊治院長をはじめ医師7名、看護師20名、事務員5名で構成されました。現在の体制と比べると小規模に感じられますが、最先端の取り組みがなされていました。それは医療補助制度です。当時は医療保険が未整備だったにも関わらず、更生病院では丸碧から医療補助が出されていました。それにより

患者が負担する治療費が安く抑えられていたのです。あまりの治療費の安さに社会活動家の賀川豊彦は「碧海郡の医療組合病院の如きは入院して病室を借りる。1日たった30銭である。親子丼1つ食べても35銭となります、これなら私は入院し度いと思ひます。」と絶賛しました。また所属組合から患者ごとに診療依頼証が発行され、治療費は所属組合の預金口座から差し引かれるシステムが採用されました。現金収入のない農民にとっては、現金支払いの心配をせずに治療を受けられるシステムは心強かったことでしょう。



診療依頼証(左:表、右:裏)

## 地域医療への貢献は続く

開院1年目から入院・通院合わせて延べ72,523人の患者が訪れました。当初は45台しかなかった病床も、昭和42年(1967)には505台と年々増設され、平成27年(2015)には749台の病床を有するようになりました。また平成14年(2002)には駐車場の確保が難しくなったことから、現在の安城町東広畠に移転することとなります。職員数32名で始まった更生病院は、今では職員数1,500人以上、患者数は入院・通院合わせて年間延べ100万人を数えます。開院から現在まで地域の健康を守ってきたばかりか、社会福祉の向上の役割も果たしてきた更生病院は、これからも皆さんの健康を支えていくことでしょう。

問い合わせ 文化振興課(歴史博物館内) 77-4477

昨今のコロナ禍の影響により、これまで以上に家の中で過ごすことが多くなったという方もいらっしゃるのではないでしょうか。本を読んだり、編み物をしたり、家族と一緒に過ごしたりと、物事に向き合う時間が増えたという方もいるかもしれません。

作家にとって室内というのはプライベートな空間であり、モデルのリラックスした姿を描いたり、描く対象をじっくり見つめたりと、そこでしか描けない場面も多くあります。

この作品《レース編み》では、室内で編み物を楽しむ女性が柔らかなタッチで描かれています。作者の中田安喜子は、1918年に安城市で生まれ、福山すすむに師事し、1972年に形象派新人賞を受賞しました。同展では、その後も審査員を務め、1989年には芸術大賞を受賞し、翌年出品したのがこの《レース編み》です。

今回の企画展では、市民ギャラリーコレクションの中から、家や家族、家での過ごし方をテーマにした作品のほか、Home=故郷として地元安城や三河地域を描いた作品を選びすり展示します。ここで紹介した《レース編み》や作者の中田安喜子の師である福山すすむの作品も展示します。そのほか、市内小中学生作品も募集し、展示する予定です。作家たち、小中学生のみなさんが描くそれぞれのHomeをぜひ会場でご覧ください。

令和3年10/8(金)～10/17(日)  
市民ギャラリー 展示室D・E 入場無料 月曜休館



中田安喜子《レース編み》

### 問い合わせ

文化振興課(市民ギャラリー内) 77-6853



## ソフトボールの夏がやってくる!

オリンピックイヤーの今年、ソフトボールの聖地安城では、7月にカナダ女子ソフトボール代表チームの東京2020オリンピック事前合宿(7/7～7/18)が行われます。カナダチームは、世界ランキング3位で、メダル獲得が期待されています。ホストタウンの安城市として、みんなでカナダチームを応援しましょう。

### 練習試合(観覧可能)の予定

- 7/10(土) 午前・午後に各1試合
- 7/13(火) 午前・午後に各1試合
- 7/15(木) 午後に2試合(1試合はナイター)
- 7/17(土) 午後に2試合

※詳細はHPをご覧ください。

※合宿は、新型コロナウィルス感染症対策を行い、実施します。

そして、今年も全日本大学女子ソフトボール選手権大会(通称:インカレ)が8月に開催予定です。全国から安城に集まり、「安城で勝利」「安城で日本一」を目指して熱い戦いを繰り広げます。

みなさんもぜひ、カナダ合宿&インカレを見に来て、ソフトボールの聖地安城を体験してみてください。



問い合わせ スポーツ課(東洋アリーナ安城内) 75-3535



「あんてな」ではAR(拡張現実)という技術を使っています  
マークがある紙面にかざしてください



**① AR**  
あんてな紙面にかざしてARで情報を閲覧できます



かざす対象の号をタップ

**④ 公民館講座**  
抽選結果など講座に関するお知らせ

**⑤ プラネタリウム**  
プラネタリウム投映情報

**⑥ FabSpace**  
FabSpaceの機器利用案内や講座情報など

**⑦ 施設案内**  
市民交流施設などの一覧情報

**⑧ あんてな**  
最新号及びバックナンバー

**⑨ ARマップ**  
主要な駅等AR画面の閲覧

**⑩ お知らせ**  
プッシュ通知の履歴と詳細

**⑪ 使い方**  
アプリの使い方

**AR 拡張現実**

ARとは、スマートフォンやタブレット端末を通して画像・動画などを現実の風景と重ね合わせて表示させる技術です。

**あんてなアプリダウンロード**

※スマートフォン・タブレットのスペック及び通信環境等により正常に動作しない場合がございます。  
※このアプリの利用は無料ですが、ダウンロードや閲覧などにかかる通信費は、利用者の負担になります。  
※スマートフォンやアプリの不具合などについては市では対応しかねますのでご了承ください。



## Fab Spaceでものづくりを楽しもう!

### レーザー加工機・3Dプリンター・デジタルミシンの一般利用時間の変更について

これまで

①午前10時30分～11時30分 ②午後1時～2時

令和3年  
4月1日  
以降

①午前9時30分～10時30分 ②午後1時30分～2時30分

3Dプリンター

①午前9時30分～11時30分 ②午後1時30分～3時30分

**Fab Space 教室とは…**

へきしんギャラクシープラザ(安城市文化センター)にある、ものづくりを楽しんでもらえるスペースです。  
レーザー加工機、3Dプリンター、デジタルミシンといった機器があります。

**一般利用とは…**

毎週水・金・土曜日(講座等使用時、休館日を除く)に行っているレーザー加工機・3Dプリンター・デジタルミシンの機器利用開放です。一般利用の予約をすればFab Space教室にある上記の機器を指定された時間自由に使うことができます。

※営利目的での利用は不可

★レーザー加工機・3Dプリンターについては、へきしんギャラクシープラザで毎月行っているレーザー加工機利用講習会、3Dプリンター利用講習会を受講した方が受講済機器の一般利用対象になります。  
利用講習会の日程についてはQRコードをご確認ください。デジタルミシンの講習会はございませんので安城市在住・在勤・在学の高校生以上であればどなたでもご利用できます。



問い合わせ 生涯学習課(へきしんギャラクシープラザ内) 76-1515